

男女共同参画社会を目指して

東部中学校 3年 大羽亜依さん

学校で興味のある職業について調べる機会がありました。職業によって、男女比に違いがあることが気になりました。私は、学芸員や教員に興味があるのですが、どちらも資格が必要です。採用試験に受からないと就職できません。教員の場合だと、どの教科を専攻するか人によって違います。そこで、技術と家庭科について考えました。家庭科の教員は女性が多いです。教師の選択した専門が男女でたまたま偏りがあるだけだと思います。しかし一方、家庭のことは、女性がするという社会を反映しているのかもしれませんが。

私の兄が中学の時、家庭科の担当が男性教員でした。5年前で、少しびっくりしたそうです。家庭科は女性教員で技術は男性教員という固定概念があるためだったと思います。しかし、今、私の学校の技術担当は女性教員ですが、違和感がなく話題にもなっていません。技術家庭科という教科から男女の役割の区別の概念が消え、それを教える教員の性別も問題ではないという男女共同参画社会が広まっていると言えるのではないかと思います。

他の職業では、看護師や保育士も男性の数が増えてきていると感じます。男女で対等に仕事ができる環境、雰囲気が出てきたのかもしれませんが。性別に関係なくやりたい仕事に就くことが広がっているようです。私も将来、仕事を決めるとき、性別ではなく仕事の内容ややりがいで決めたいと思います。